

研究タイトル:

日本近現代文学研究

氏名: 安藤 陽平 / ANDO Yohei E-mail: y_ando@asahikawa-nct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(文学)

 所属学会・協会: 日本近代文学会、昭和文学会、日本社会文学会
 占領開拓期文化研究会、立命館大学日本文学会

キーワード: 日本文学・文化、戦後文学、第三の新人、男性性

技術相談

提供可能技術:

・日本近現代文学や文化に関する事柄

・

・



研究内容:

① アジア・太平洋戦争後の日本文学における「第三の新人」に関する研究

アジア・太平洋戦争後の日本文学については、「第一次・第二次戦後派」に続き、「第三の新人」という作家たちが登場したと説明されます。「第三の新人」には安岡章太郎・吉行淳之介・庄野潤三など数名の作家が含まれますが、それらの作家・作品について以下の観点から研究しています。

i. 「第三の新人」各作家の作品分析

戦後文学に関するひとつの定説として、「戦後派」作家は西洋的な本格小説の創作に挑戦し、思想や政治、社会に通じる作品を描いたとされます。他方、その後に登場した「第三の新人」は、「戦後派」の流れを汲まずに些末な日常ばかり描き、日本的伝統に回帰したとされます。しかし、彼らの作品を仔細に検討していくと、決してそうとも言い切れない部分のあることがわかります。そこで、今一度「第三の新人」作品を分析し、従来の説明の更新を目指しています。



安岡章太郎展

(神奈川近代文学館・2016)

ii. 「第三の新人」という枠組みの検討

「第三の新人」については、そもそも「第三の新人」とは誰か／どのような作家たちかという説明さえあいまいなまま現在に至っています。そこで、「第三の新人」という枠組みが使われはじめた1950年代の資料を調査していくと、それが当時のジャーナリスティックな要請にしたがって作られた経緯のあることが見えてきます。当時の資料調査や「第三の新人」をめぐる言説編成に目を向け、枠組み自体を問い直す作業をおこなっています。

以上の手法から「第三の新人」について新たな見方を呈示し、戦後文学の再考につなげていく研究を構想しています。

② 男性性を視点とした日本近現代文学の研究

近年話題に挙がることも増えた 男性性 masculinity を視点に、日本文学を分析しています。男性性について意識的に創作された作品も増えてきていることから、近代文学のみならず現代文学にも目を向け、作品分析を試みています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	